

◆授業設計のポイント◆

- ① 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化
- ② 思考を広め深める対話環境の設定
- ③ 学習プロセスを見通し・振り返る活動の充実

美術科学習指導案

学 級 2年3組（男子 18 名 女子 17 名 計 35 名）

場 所 第一美術室（3年校舎3階）

授業者 教 諭 馬 場 久 美 子

1 題材 デザイン

題材名 「Japanese "OMIYAGE"」

2 題材設定の理由

今日、私達の身の回りには様々なデザインされたものが溢れている。それは日常で手にする様々な商品にも全てと言ってよい程施されており、内容も多岐に渡っている。そして私達はそれらを個々の美的感覚にそって感受・選択し、生活を潤いあるものにしている。本題材は生活で目にする機会の多い、缶詰のラベルをデザインする題材である。学習指導要領においても目標として「構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。」と明記されており、主に内容物を明確に示した文字やイラストから構成される缶詰のラベルは、表現の目的や条件が明確であること、そして単に目的や条件を満たすだけでなく、日常生活と関連づけた表現を必要とすることから、生活や社会の中の美術と豊かに関わろうとする資質・能力を身に付ける題材としてふさわしいと考える。

本学級の生徒は発想する力に富んでおり、意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組む生徒が多いが、実生活と美術の関わりを意識しながら授業に臨む姿はまだ不十分である。また今までの実生活や授業での既習事項を関連づけて、表現・鑑賞をすることに関してもまだ経験が浅く、十分であるとは言えない状態である。グループ活動での対話の中でそれまでに得た既習事項をどのように関連づけて活用するかが課題である。

本題材では「訪日した外国人観光客がお土産として購入したくなるような缶詰」という設定で缶詰のラベルデザインを個人制作する。指導にあたっては導入部分で実際に日本が海外へ輸出してきた缶詰ラベルを複数鑑賞する場面を設定する。その際、共通事項の中の色・形や美的秩序などの視点からそれぞれ捉えさせることにより、ラベルデザインに対する考えに自分なりの根拠をもたせたい。また海外からの観光客が意識するであろう「日本的な美意識」についても共通事項の視点から捉えさせたい。そしてこの鑑賞により主題をより深く広く考え、構想を深めていく手助けとしたい。展開部分では「日本的な美意識」についてマッピングにより深く掘り下げたり、画像資料を活用したりすることにより、自分の目標イメージを明確にもたせる。そしてアイデアスケッチを行い、その後のグループ会議で他者との対話を通して客観的な評価・アドバイスを受け、さらに構想を深めさせる。その手立てとして、導入部分で得た既習事項を意見の根拠として活用させる。その後、再度表現を練り直し、実生活との関連を意識させながら自分なりに作品の質を高めていく。また題材の中の各項目ごとに気づいたことをメモに取る場面を設定し、既習事項の確認や題材を通した学習評価の参考にする。このような学習プロセスを経ることにより、生徒の深い学びにつなげていきたいと考える。

3 題材の目標

- (1) 缶詰ラベルの制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すことができる。
- (2) 缶詰ラベルが伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ることができる。
- (3) 楽しく缶詰ラベルを表現する活動に取組み、創造活動の喜びを味わい、デザインを愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養うことができる。

4 単元の指導計画（全10時間）

1 題材の把握と鑑賞Ⅰ （1時間）	「缶詰ラベルについて鑑賞しよう」 ・ 題材の説明を聞く。 ・ 鑑賞の手引きを活用しながら、実際に日本が海外へ輸出してきた缶詰ラベルを共通事項に沿って分析し、まとめる。 ・ 学習した美的秩序（シンメトリー等）や日本的な美意識と缶詰とのデザインの関連を把握する。
2 表現の発想と構想 （2時間）	「缶詰ラベルについてイメージをふくらませよう」 ・ 「日本の美意識」についてアイデアマッピングをする。 ・ アイデアマッピングから、どんな資料が必要か考える。 ・ 必要なイラストパーツや背景を考え、資料を収集する。
3 制作Ⅰ （2時間）	「缶詰ラベルのアイデアスケッチをしよう」 ・ イラストパーツや背景を組み合わせ、缶詰ラベルを構成する。
4 鑑賞Ⅱ （2時間：本時）	「互いのアイデアスケッチを鑑賞し、よりよいものにしよう」 ・ 他の生徒のアイデアスケッチを鑑賞し、アドバイスをふせんに記入する。 ・ 座標軸シートとふせんを見比べ、アイデアスケッチをグループ会議の形式で批評し合い、よりよいデザインにするための具体策をまとめる。 ・ アイデアスケッチを練り直す。
5 制作Ⅱ （2時間）	「缶詰ラベルを制作しよう」 ・ アイデアスケッチを基に缶詰ラベルを完成させる。
6 鑑賞Ⅲ （1時間）	「缶詰ラベルをプレゼンしよう」 ・ 完成した作品を全員の前でプレゼンする。

5 題材における評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
・材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表そうとしている。	・構成や装飾の目的や条件などを基に，用いる場面や環境，社会との関わりなどから主題を生み出し，美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを総合的に考え，表現の構想を練っている。 ・伝える目的や条件などを基に，伝える相手や内容，社会との関わりなどから主題を生み出し，伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え，表現の構想を練っている。	・主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を深め，心豊かな生活を創造していく態度を養おうとしている。

6 本時の実際（7/10）

(1) 題 材…「アイデアスケッチを互いに鑑賞し，よりよいものにしよう」

(2) 目 標（評価規準）

ア 缶詰ラベルのもつ目的や条件を理解し，アイデアスケッチを創造的に再構成することができる。

【知識・技能：表現】

イ 缶詰ラベルの形や色などの性質を理解し，適切な言葉で表現することができる。

【知識・技能：鑑賞】

ウ 他の生徒のアイデアスケッチを鑑賞し，作者の意図や表現の工夫，缶詰ラベルとしての調和のとれた美しさなどを自分の価値意識をもって批評し合った上で，表現の構想を練ることができる。

【思考力・判断力・表現力】

ア アイデアスケッチに関心を持ち，共通事項を通して主体的に表現・鑑賞を行うことができる。

【学びに向かう力・人間性等】

(3) 授業設計の工夫

ア 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化 研究の視点1

本時における深い理解に至った生徒の姿を『既習事項を活用し共通事項の視点から思考を深め，用途や機能，実生活との関連，他者の意見，自分の思い等を総合した上でより自分の目標イメージに近い缶詰ラベルのアイデアスケッチを練り直し，表現することができる状態である』と設定した。思考を深めるための手立てとして，「鑑賞の手引き」「用語集」「資料ポートフォリオ」の活用，自分のアイデアスケッチに対する他者の意見を客観的に見取る手段として，グループ会議に際して「座標軸シート」を取り入れることにした。

イ 思考を広め深める対話環境の設定 研究の視点2

自分のアイデアスケッチが，相手にとってどう受け止められるのか，グループ会議を通して捉えさせる。また対話を通しての思考をより深める為に，グループ会議①で得た意見の中で，さらに深く話し合いたいテ

ーマを選び、再度グループ会議②を行い、最後にファシリテーター役の生徒が、話し合った内容をまとめる活動を取り入れることにした。

ウ 学習プロセスを見通し・振り返る活動の充実 研究の視点 3

導入部分で実際に海外へ輸出されている缶詰ラベルについて「形」「色彩」等の共通事項の視点から鑑賞し、そこで得た価値意識を基に表現の学習活動へと展開していく。このような鑑賞・表現を相互に繰り返す学習プロセスを1枚のアイデアマップに順序立てて記録することにより、題材を通した見通し・振り返りが可能になると考える。またアイデアマップに制作の順序を追って、生徒自身が気づいたことを記録する「気付きメモ」の欄を設けることにより、生徒の思考の変容を見取りやすくした。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

論理的思考力 レベル3	
【子供の姿】 ・他の生徒のアイデアスケッチに対して、根拠をもって共通事項の視点から、自分の考えを説明し、互いに批評し合う。	【手立て】 ・「鑑賞の手引き」「用語集」「資料ポートフォリオ」を活用し、他の生徒のアイデアスケッチに対する意見に客観的な根拠をもたせる。

(5) 展 開

過程	主な学習活動とその目的	時間 /形態	指導上の留意点
導 入	1 本時の学習目標を確認する。	10分 一斉	
	【学習目標】 互いのアイデアスケッチを鑑賞し、グループ会議を通してよりよいものにしよう。 自分のアイデアスケッチを他者はどのように捉えるだろうか？またよりよくするためにはどうすればよいだろうか？そのための改善点を他の人からの意見を参考に明確にしたい。		・アイデアマップを使って前時までの学習過程を振り返り、アイデアスケッチを練り直すという本時の学習活動にどのような意味があるのかを捉えやすくする。 研究の視点 3 常 課題発見力 レベル1
展 開	2 前時に制作した自分のアイデアスケッチと制作の視点に沿った「ふせん」「座標軸シート」を見比べ、更に話し合っていたい内容を考える。	5分 個人	・自分の表現について他の生徒はどのように捉えたかを「ふせん」「座標軸シート」によって客観的に見取りやすくする。 研究の視点 1 ・個々から得た意見を整理し、自分が更に聞いてみたい内容を絞ることで、話し合いの内容を具体的なものにする。 研究の視点 2

「気付き」 P1：自分が表現したいものが，他の人には余り伝わっていないようだ。 P2：日本らしさが伝わっていないことが課題のようだが，どうすればいいだろうか？		
3	グループ会議を行う。互いのアイデアスケッチについて批評し合い，さらに良いものになるように意見を交換する。	20 分 グループ ・話し合いの最後に，出た意見を整理することにより，作品をどのように改善すればよりよくなるかを明確にする。 研究の視点 2 ☒ 情報活用力 レベル1 ☒ 協働する力 レベル3
「納得」 P1：ラベルの文字の書体を見やすいものにするために，他の資料を探してみよう。 P2：他の人の意見を聞くと，日本的なイメージを伝えるには別の配色の方が良さそうだ。 P3：同じような内容物でも人によって全く違う色や形を選んでいることに気付いた。		
4	アイデアスケッチの変更点を確認し，再度表現する。	10 分 個人
「意志」 P1：他の人の意見を基に形にシンメトリーの要素を加えて変更してみよう。 P2：他の人の配色を参考にして，より自分のイメージが伝わりやすい配色を考えてみよう。 P3：自分の考えと他の人の考えが違ったが，自分の意図を大切に形の変更はしないでおう。		
		・「意志」P3 のような生徒には作品をより多面的・多角的に捉えられるように，違う角度からのアイデアスケッチをしてみるよう助言を行う。 研究の視点 1・3
本時の深い理解に至った生徒の姿 既習事項を活用し共通事項の視点から思考を深め，用途や機能，実生活や社会との関連，他者の意見，自分の思い等を総合した上でより自分の目標イメージに近い缶詰ラベルのアイデアスケッチを練り直し表現する姿。		
終 末	5 本時の感想，気付いた点や次時への課題などを「気付きメモ」に記入する。 6 次時の説明を聞く。	5 分 一斉 ・アイデアマップを使って自分の考えの深まりを自覚できるようにする。 研究の視点 3 ☒ メタ認知 レベル2